

環境学 (Environmental Studies)					担当教員
					非常勤講師 寺田 匡宏
科目群	開講期	授業形態	単位数	必修等	
人と文化	3年次 前期	講義	1.5単位	選択	

【概要】

環境とは「まわりを取りまくもの」ですが、そのまわりを取りまく取りまき方は、様々な深さと広がりを持っています。あなたの部屋も環境ですし、グローバルな地球環境も環境です。また、一方で、環境とは、それをとらえる側のあり方によって変わってゆくものでもあります。わたしやあなたにとって、環境とは、私やあなたの外にあるものですが、わたしやあなたの中に住む細菌などの微生物にとっては私やあなたの内部が環境です。わたしたちが環境について考え、環境問題について論じる際の難しさは、この環境の重層したあり方に端を発します。ミクロとマクロ、ローカルとグローバルの立場から、環境をどのように考えればよいのか。さらに、環境や環境問題に、医療や人の健康にかかわる立場からどのようにかかわればよいのかを、最新の地球環境学にかかわるトピックと概念から考えてゆきたいと思います。

【授業の一般目標】

この講義では、(1)環境とはなにかについての基本的視点を持つとともに、(2)世界の環境と環境問題の具体的なあり方とその課題について理解することを目標としています。また(3)環境と環境問題について、自分の意見を述べることも目標とし、ディスカッションとレポートを重視します。

【準備学習(予習・復習)】

予習復習をあわせて 1 週あたり 150 分程度の学修が必要である。内容についてはそのつど指示をするが、講義に関連したトピックを調査し、自分の考えをまとめることが中心となる。

【学習項目・学生の到達目標】

No	学習項目	担当教員	学生の到達目標
1	イントロダクション——環境と世界、環境問題の歴史	寺田	環境とは何か、環境問題はどのようにして今日のように論じられるようになったのかを理解する。
2	地球の限界——プラネタリー・バウンダリーとアンソロポシオン	寺田	グローバルな環境問題における基本的な問題である「地球の限界」説とその克服に関する構図を理解する。
3	人と自然、風土と環境	寺田	自然と環境はどう違うのか。人間と環境はどのように相互作用を行っているかを理解する。
4	誰が環境を保護するのか？——アドブティブ・ガバナンスと住民主体	寺田	環境保護の歴史と環境保護における住民の役割について理解する。
5	いきものと人(1) 生物多様性と言語文化多様性	寺田	環境において多様性を持つ意味を生物多様性と言語文化多様性というキーワードから理解する。
6	いきものと人(2) 共生、シンビオジェネシス、環世界、サイボーグ	寺田	いきものと生き物、人と生き物の多様な関係について理解する。
7	持続可能性とレジリエンス	寺田	環境における望ましい未来のあり方に関して持続可能性とレジリエンスの視点を理解する。
8	自然災害と社会の立ち直り	寺田	環境の激変である自然災害とそこからの社会の立ち直りのさまざまなあり方について理解する。
9	近代の相克——水俣病事件(1) 科学の責任	寺田	水俣病事件の歴史的経緯とそこにおける科学の責任について理解する。
10	近代の相克——水俣病事件(2) 胎内という環境と失われた世界(映画鑑賞)	寺田	被害者の視点から見た時、水俣病事件はどのように捉えられるのかを理解する。
11	環境の中の健康——エコヘルス	寺田	健康が環境と深いかわりを持つことをエコヘルスという切り口から理解する。
12	環境とケア——エリア・ケイバビリティ	寺田	環境をケアするとはどういうことかをケイバビリティの考え方をを用いて理解する。

13	環境の中のハビトゥスとしての食	寺田	食が人間にとって持つ意味を環境の中での行為としての食という視点から理解する。
14	援助と自立 南北問題	寺田	グローバルな環境問題を生み出す一因である南北問題とその解決へ向けた援助の在り方について理解する。
15	総括・まとめ		

(書名)

(著者・編者)

(発行所)

教科書 使用しない(適宜資料を配布)

【成績評価方法・基準】

期末レポート 40% 小レポート30%、平常点（議論への参加等）30%

【評価のフィードバック】

講評は、合格発表日に掲示にて公開する。

【オフィスアワーなど担当教員に対する質問等の方法】

授業の前後の時間に教室で質問を受け付けます。